

2009年安全報告書をご覧いただき、誠にありがとうございます。また、平素は阪急電鉄をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。当社は、みなさまに愛される鉄道を目指し、公共交通機関の使命を果たすべく様々な施策に取り組んでいます。中でも安全に対しては、PDCAサイクルを機能させ、立ち止まることなく、一步先の安全を追及することが我々の使命であると考え、今後とも最優先で取り組んでまいります。

2008年度は、G8北海道洞爺湖サミットが開催され、地球環境問題に大きな関心が寄せられました。特に地球温暖化防止については、CO₂の排出量が自動車の約9分の1である鉄道が注目され、鉄道利用の促進を更にアピールする重要性を改めて実感しました。当社では、環境負荷の少ない交通機関である鉄道の利用促進と地域社会との共生を目指して、エコトレインの運行や駅に起因するCO₂排出量をゼロにする『カーボン・ニュートラル・ステーション』の新駅設置計画を進めています。しかし、これらの推進も「鉄道の安全な運行」が基盤であり、引き続き、輸送の安全性を向上させるための様々な施策を実施してまいります。

2009年度の輸送の安全に関する具体的な取り組みとしては、昨年度から引き続き、高架化工事等の大規模工事をはじめ、運転保安やサービス改善関連の工事に重点的に投資します。中でも、淡路駅・洛西口駅・今津線の高架化工事をはじめ、踏切やホームの保安対策を進めます。また、当社を代表する6300系京都線特急車両をすべて9300系新型車両に置換えるとともに、既存車両の大規模改造を行い、サービスと保安度の向上を図る予定です。

当社は、来年3月、営業開始（1910年3月10日）から100年を迎えます。この100年間で積み上げられてきた今日の安全は、過去の自社や他社の事故、災害、並びに苦い経験が元となり築かれています。そこで、“今”の安全対策と“過去”から得られる教訓や規程制定の背景等を学ぶことが重要であることから、本年5月、社員を育成する教習所内に「安全考学室」を開設しました。より安全意識の高い企業風土の構築に向け、安全最優先の更なる醸成に努めてまいります。

次の100年へ、ハードとソフトの両輪を充実させ、お客様第一・安全最優先の強い信念を持って、一步先の安全を提供できるよう、そしてより一層みなさまに愛される会社に築き上げるよう邁進してまいります。

阪急電鉄株式会社 取締役社長

角 和夫

